

## 2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ③国内外の大学との単位互換協定やダブル・ディグリー等による教育課程の充実

##### 《理工農系》

##### ●岐阜大学連合獣医学研究科獣医学専攻

##### 「グローバル化に向けた実践獣医学教育の推進」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

大学院の教育システムの改革が優先するあまり、国内外の大学との単位互換協定やダブル・ディグリー等を進める時間的余裕が得られなかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

海外の大学との連携を図る意味で、国際シンポジウムや大学院生の海外研修等を盛んに実施したが、現在の大学院の履修システムと海外の履修システムの共有や融合を図る機会が得られなかった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

国際的にも通用する大学院の履修システムを確立することが重要である。履修システムを共有することによりお互いの利益が明確化するためにも、履修内容の改革と広報が重要であると思われた。

## 2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

### B. 円滑な学位授与の促進

#### ②厳格な成績基準と評価基準の設定や学位授与プロセスの明確化

##### 《理工農系》

##### ●岐阜大学連合獣医学研究科獣医学専攻

##### 「グローバル化に向けた実践獣医学教育の推進」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

成績の基準と評価基準を明確にしたものの、各教員が評価する内容まで研究科として十分に把握できなかった。学位授与プロセスに関しては、ある程度履修内容を明確化することができた。

(苦勞したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

要因として、研究科が有する研究内容の幅の広さと様々な教員からなる教員数の多さがあげられる。特に、研究内容の幅の広さは、評価基準が広がる共に、一体感に欠けた印象を与えた。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

研究内容の幅の広さにおいては、連合講座あるいは領域ごとの対応が必要に思われた。研究領域ごとの基準作りやガイドライン作りの大切さを痛感している。